

新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン 改訂版

令和2年8月20日
山梨県小中学校体育連盟

1 はじめに

本ガイドラインは、日本スポーツ協会が作成した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」に基づき、本連盟における大会再開後の指針として作成しました。

各専門部におかれましては、本ガイドラインや競技団体が作成する各競技別のガイドライン等に従って感染拡大防止を徹底し、安全な大会運営に取り組んでいただきますようお願い致します。

なお、本ガイドラインは、現段階で得られている知見等に基づき作成しています。今後見直すことがあり得ることにご留意ください。

2 山梨県小中体連主催大会開催に当たっての基本的考え方

山梨県のイベント開催や教育活動の方針に従うとともに、運動部活動が学校教育の一環であることを踏まえ、以下の条件が整うことを開催の条件とします。

- (1) 通常の学校教育活動が再開されていること。
- (2) 運動部活動が再開され、1ヶ月間の準備期間があること。
- (3) 「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準である地域の感染レベルが「1」になり、2週間が経過していること。そして、運動部活動再開ガイドラインの第5ステージ以降に進んでいること

3 大会開催時の感染防止策について

この内容は、あくまで包括的な事項であり、各大会の特性等を勘案して、下記以外に感染拡大防止のための必要な取組を適宜盛り込んでいただきますようお願いいたします。

(1) 全般的な事項

- 1) 感染防止のため主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所(大会の受付場所等)に掲示すること(別添1, 2)
- 2) 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認すること
- 3) 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日は役員・補助役員・参加者の体調を書面により確認し、提出された書面について、保存期間(少なくとも1月以上)を定めて保存しておくこと
- 4) 大会に参加する全ての者(参加生徒・顧問・役員等会場内に入る者)は、競技中以外はマスクを着用すること
- 5) 大会後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、施設の立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくこと

(2) 大会申込時の申告事項

- 1) 参加生徒が以下の事項に該当する場合は、参加することができない
(大会当日に書面で確認を行う)
 - ① 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
 - ② 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ③ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- 2) マスクを持参すること(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること)

- 3) こまめな手洗い, アルコール等による手指消毒を実施すること
- 4) 他の参加生徒, 大会役員等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること
- 5) 大会中に大きな声で会話, 応援等をしないこと
- 6) 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守, 主催者の指示に従うこと
- 7) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は, 主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること
- 8) 原則として無観客で開催する。

(3) 大会会場で準備すべき事項

1) 手洗い場所

- ① 手洗い場には石鹼(ポンプ型が望ましい)を用意すること
- ② 手洗いに関するポスター等の掲示をすること
- ③ 参加者には, 手洗い後に手を拭くためのマイタオル用意させること
- ④ 手洗いが難しい場合は, アルコール等の手指消毒剤を用意すること

2) 更衣室, 休憩・待機スペース

- ① 広さにはゆとりを持たせ, 他の参加者と密になることを避けること
- ② ゆとりを持たせることが難しい場合は, 一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講ずること
- ③ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ, ロッカーの取手, テーブル, イス等)については, こまめに消毒すること
- ④ 換気扇を常に回す, 換気用の小窓をあける等, 換気に配慮すること
- ⑤ スタッフが使用する際は, 入退室の前後に手洗いをすること

3) 洗面所

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ, 水洗トイレのレバー等)については, こまめに消毒すること
- ② トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること
- ③ 手洗い場には石鹼(ポンプ型が望ましい)を用意すること
- ④ 手洗いに関するポスター等の掲示をすること
- ⑤ 参加者には, 手洗い後に手を拭くためのマイタオル用意させること□参加者が飲食物を手にする前に, 手洗い, 手指消毒を行うよう声を掛けること

4) 飲食

- ① 飲食物を手にする前に, 手洗い, 手指消毒を行うよう声を掛けること
- ② 役員・選手とも, 飲食場所は広さにはゆとりを持たせ, 他の者と密になることを避けること
- ③ 大会中の飲食は必要最低限にとどめ, 指定場所以外で行わず, 周囲の人となるべく距離を取って対面を避け, 会話は控えめにすること
- ④ 選手の飲食は, 参加校の責任において喫食させるとともに, ゴミはすべて持ち帰らせること

5) 会場

- ① 大会を室内で実施する場合には, 換気の悪い密閉空間とならないよう十分な換気を行うこと
- ② 換気設備を適切に運転すること
- ③ 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと
- ④ 怪我人の処置室とは別に体調不良者用の待機場所を設置すること

6) ゴミの廃棄

- ① 鼻水, 唾液などが付いたごみは, ビニール袋に入れて密閉して縛り, ゴミを回収する人は, マスクや手袋を着用すること
- ② マスクや手袋を脱いだ後は, 必ず石鹼と流水で手を洗い, 手指消毒すること

(4) 大会当日の受付時の留意事項

- 1) 受付窓口には、手指消毒剤を設置すること
- 2) 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛けること
(状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限することも考えられる)
- 3) 人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること
- 4) 受付を行うスタッフには、マスクを着用させること

(5) 大会参加者への対応

1) 体調の確認

引率責任者(顧問等)から参加者について、以下の事項を記載した書面の提出を求めること

- ① 保護者 大会参加同意書 ※個人情報の取扱いに十分注意する
- ② 健康チェックカード(各学校で使用しているもの)
- ③ 大会前2週間における以下の事項の有無 ※大会参加同意書で確認する
 - ア 平熱を超える発熱(おおむね 37 度5分以上)
 - イ 咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状
 - ウ だるさ(倦怠(けんたい)感)、息苦しさ(呼吸困難)
 - エ 嗅覚や味覚の異常
 - オ 体が重く感じる、疲れやすい等
 - カ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - キ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ク 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2) マスク等の準備

- ①参加者がマスクを準備しているか確認すること
- ②参加の受付、着替え、表彰式等の運動行っていない間については、マスクの着用を求めること
(運動・スポーツ中のマスクの着用は顧問等の判断によるものとする)

3) 大会参加前後の留意事項

- ① 大会(試合)の前後のミーティング等においても、三つの密を避けること
- ② 会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮すること

(6) 参加生徒が遵守すべき事項

1) 以下の事項に該当する場合は、参加ができない

(大会当日に書面で確認を行う)

- ① 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- ② 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ③ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2) マスクを持参すること

(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること)

- 3) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- 4) 他の参加者、大会役員等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること
- 5) 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと
- 6) 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと
- 7) 大会(試合)終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに 濃厚接触者の有無等について報告すること
- 8) 大会(試合)の前後のミーティングにおいても、三つの密を避けること

(7) 参加者が競技を行う際の留意点

- 1) 十分な距離の確保
 - ① 競技の種類に関わらず、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を空けること ※感染予防の観点からは、少なくとも2mの距離を開けることが適当である。
 - ② 強度が高い競技の場合は、呼気が激しくなるため、より一層距離を空けること
 - ③ 水泳時などでマスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること ※感染予防の観点からは、少なくとも2mの距離を開けることが適当である。
- 2) 位置取り
 - ① 前の人の呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線上に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること
- 3) その他
 - ① 運動中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと
 - ② タオルの共用はしないこと
 - ③ 飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること
 - ④ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外(例えば走路上)に捨てないこと

(8) 参加生徒又は部顧問(関係指導者)の感染が判明した場合の対応

- 1) 大会前
 - ① 当該参加生徒、顧問、濃厚接触者と特定された者の出場(入場)は認めない
 - ② 団体競技においては、参加申込後の選手変更を認める
 - ③ 個人競技においては、欠場とする
- 2) 大会期間中
 - ① 大会に参加する全ての者(参加生徒・顧問・役員等会場内に入る者)は、必ず当日の朝、自宅で検温を行い、37.5℃未満であることを確認し会場に入る
(各専門部は会場に入る前に非接触型の検温器等を使い、入場する全ての参加者の検温を行うこと)
 - ② 特に参加生徒については、引率責任者が責任をもって体調を確認し、書面(健康チェックカード等)を受付で提出すること
 - ③ 大会中に発熱等の症状を訴える参加生徒を確認した場合は、保護者に迎えに来てもらい速やかに帰宅させる
- 3) 大会後
 - ① 感染者の所属する学校や行政機関の指示に従うこと
 - ② 当該の専門部は、速やかに事故報告書を作成し、県小中体連事務局と感染者が参加した大会当日に会場内にいたすべての者に連絡をすること

(9) その他

- 1) 各専門部は、本ガイドライン及び中央競技団体(協会・連盟)で作成したガイドラインを基に、種目の特殊性や特性を適宜盛り込んだ、独自のガイドライン及びチェックリスト等を作成すること
- 2) 会場への移動等は、各学校で責任をもって行い、集団感染のリスク(3密の条件)を避けること
- 3) 今後、社会情勢が大きく変化し、通常の世界生活に戻るなどした場合の対応は、上記の限りではない。

(以上)